

渡り鳥保全調査報告1996年度

- 亜高山の鳥類相 - *

福井県自然保護センター - 1

はじめに

人間活動と自然保護の調整は難しい問題であるが、行政としては、野生生物保護のために生息環境の保全や保護区の設定などを行なうことが必要である。そのためには、科学的資料が不可欠であり、少なくとも基礎となる生物相を把握しておくべきであろう。

福井県では、県内に生息する鳥類相を明らかにするために、1969年度よりガンカモ科鳥類生息調査を、1977年度より渡り鳥保全調査を継続している。ガンカモ科鳥類生息調査では、同じ場所での種数や個体数の変化が調査されており、渡り鳥保全調査では、異なる環境での鳥類相が調査されている。1986年度から1990年度までは山麓部の森林で(福井県県民生活部自然保護課 1989, 福井県自然保護センター 1993), 1991年度は都市部で(福井県自然保護センター 1994), 1995年度には海岸部で調査が行なわれている(福井県自然保護センター 1997)。

本県には、標高2,000mを超える山はないものの、石川県、岐阜県との県境に、高山帯である白山(標高2,702m)と連なる1,500m級の山々が存在する。山塊が連続しているため、標高は低いものの亜高山や高山の鳥類が生息する可能性は高い。そこで、1996年度は、隣県の一部を含む標高750~2,095mの山地の鳥類相とその繁殖状況について調査を行なった。

調査地と方法

調査は、1996年6月2日~8月11日の夏期に、福井県の山地帯から亜高山帯の11の山の計20カ所で行なった(図1, 表1)。調査地内に1.4~9.9kmのルートを設定し、朝方または夕方に観察を行なった。出現したすべての鳥類の種と繁殖状況を記録し、営巣、育雛、巣立ち雛を確認した場合に繁殖していると判断した。観察と識別は、双眼鏡と望遠鏡を用いて行なった。

結果と考察

記録された種とその学名および観察密度を表2に掲載した。

計8目21科51種の鳥類が記録された(表2)。福井県産の鳥類は、1982年から1997年まで

* 福井県自然保護センター研究業績 第52号
1. 〒912-0131 福井県大野市南六呂師169-11-2
執筆者: 大迫義人

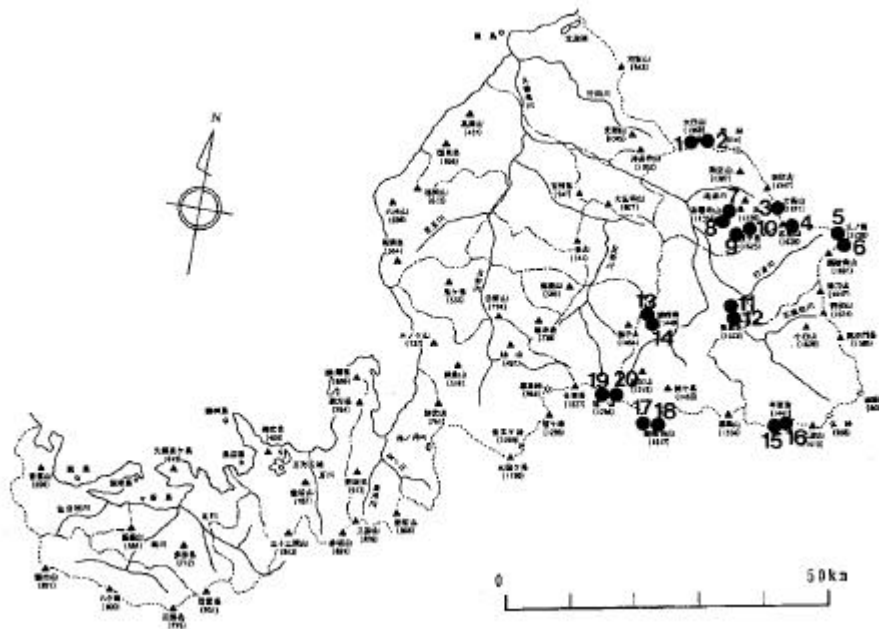


図1. 調査地の位置図 .

Fig. 1. Location of the study areas.

表1. 1996年度の渡り鳥保全調査の概要 .

Table 1. Study areas, observers, dates and general results of the fiscal 1996 bird census.

調査地 ¹ Study area	標高 Elevation(m)	メッシュ番号 ² Mesh number	調査者 Observer	調査日 Dates	調査距離 Length of route(km)	種数 No. of species
1.大日山a	750~1,320	200,223	中井信介	7/27	3.2	12
2.大日山b	750~1,320	200,223	"	7/28	3.2	12
3.大長山	1,100~1,500	92,113	柳町邦光	6/22	1.6	16
4.赤兎山	1,080~1,628	37,55,73,74,93	鈴川文夫	6/23	9.9	33
5.三ノ峰	1,700~2,095	23	中井信介	8/5	2.0	12
6.銚子ヶ峰	1,630~1,810	23,24	"	8/6	2.0	8
7.法恩寺山a	1,100~1,357	135,157	坪内和男	7/22	1.5	17
8.法恩寺山b	1,100~1,357	135,157	"	8/2	1.5	20
9.経ヶ岳a	1,420~1,625	136	"	7/14	1.5	16
10.経ヶ岳b	1,420~1,625	136	"	7/23	1.5	9
11.荒島岳a	1,000~1,524	142,143,164	柳町邦光	7/13	2.3	17
12.荒島岳b	1,000~1,524	142,143,164	鈴川文夫	7/14	2.3	17
13.銀杏峰a	1,000~1,441	287,288	柳町邦光	6/6	1.4	17
14.銀杏峰b	1,000~1,441	287,288	鈴川文夫	7/7	1.4	11
15.平家岳a	1,000~1,442	52,53,70	柳町邦光	6/27	4.0	28
16.平家岳b	1,000~1,442	52,53,70	鈴川文夫	8/1	4.0	23
17.能勢白山a	1,000~1,617	245,246	柳町邦光	6/2	2.3	16
18.能勢白山b	1,000~1,617	245,246	鈴川文夫	7/26	2.3	15
19.冠山a	1,000~1,257	343,344,368	中井信介	7/12	2.2	10
20.冠山b	1,000~1,257	343,344,368	"	7/13	2.2	9
計20カ所	750~2,095		計4人	計40日		計8目21科51種

1: 図1を参照.

2: 福岡県自然環境管理計画でもちいるメッシュ番号 .

に計292種が記録されているが（福井県自然環境保全調査研究会鳥獣部会 1998），今回は種数で17.5%が記録されたことになる．これらのうち環境庁指定の「日本の絶滅のおそれのある野生生物」の絶滅危惧種でありかつ国内希少野生動植物種のクマタカとイヌワシが赤兎山で記録された．また，主に高山帯に生息し，本県では記録の少ないイワヒバリとホシガラス（大迫・中井 1997，福井県自然環境調査研究会鳥獣部会 1998）も記録された．

計2目4科7種の鳥類の繁殖が確認された（表2）．しかし，夏期に観察された種は，その確認がなくても繁殖の可能性はある．

すべての山で記録された種はウグイスで，以下，75.0%以上の観察頻度で，順にホトトギス，コマドリ，アカゲラ，コガラ，ヒガラ，ウソ，カケスであった．本県では，ホトトギス，コマドリは夏鳥，ウグイス，ウソ，カケスは漂鳥で，他はすべて留鳥であった（福井県 1982）．最も記録種数の多かった調査地は平家岳で，37種が記録された．次いで大長山から六本檜までを含む赤兎山（33種），荒島岳（25種），法恩寺山（24種）などが続いた．

現在，各調査地での調査日数は年2日だけであり，生息種を明らかにするには不十分であり，長期にわたる精密な調査が必要である．

謝 辞

現地調査を4人の方に行なっていただいた（表1）．ここに記して感謝する．

要 約

1996年度の夏期に，福井県の山地帯と亜高山帯の11の山の計20カ所で鳥類相とその繁殖状況を調査した．のべ40日の調査で計8目21科51種の鳥類が記録され，計2目4科7種の鳥類の繁殖が確認された．これらのうち環境庁指定の「日本の絶滅のおそれのある野生生物」の絶滅危惧種であり，かつ国内希少野生動植物種のクマタカとイヌワシが赤兎山で記録された．主に高山帯に生息し，記録の少ない種であるイワヒバリとホシガラスも記録された．記録された種のうちウグイス，ホトトギス，コマドリ，アカゲラ，コガラ，ヒガラ，ウソ，カケスが広く分布していた．また，平家岳，赤兎山，荒島岳，法恩寺山で多くの種が記録された．さらに長期にわたる精密な調査が必要である．

引用文献

- 福井県．1982．福井県の鳥獣．240pp．福井県．
福井県県民生活部自然保護課．1989．渡り鳥保全調査報告書～昭和61年度から63年度までの記録～．10pp．福井県．
福井県自然保護センター．1993．渡り鳥保全調査報告-1989年度・1990年度-．Ciconia 2: 1-13．
福井県自然保護センター．1994．渡り鳥保全調査報告 1991年度-都市鳥の生息状況-．Ciconia 3:1-7．
福井県自然保護センター．1997．渡り鳥保全調査報告 1995年度-海岸部の鳥類相-．Ciconia 6:1-7．
福井県自然環境保全調査研究会鳥獣部会．1998．福井の鳥とけものたち．222pp．福井県．

表2. 福井県の山地帯と亜高山帯における夏の鳥類リストとその観察密度 (n/ha) (1996年).

Table 2. List and observation density (n/ha) of birds recorded in summer on the mountain and subalpine zones in Fukui (1996).

目 Order	科 Family	種 Species	学名 Scientific name	調査地 Study area			
				大日山 Dainichisan	赤兎山 ¹ Akausagi-yama	三ノ峰 Sannomine	銚子ヶ峰 Chosihgamine
ワシカ	ワシカ	トビ クマカ イワシ	<i>Milvus migrans</i> <i>Spizaetus nipalensis</i> <i>Aquila chrysaetos</i>		0.02		
キジ	キジ	ヤマドリ	<i>Phasianus soemmerringii</i>		*0.17		
ハト	ハト	キジハト アオハト	<i>Streptopelia orientalis</i> <i>Sphenurus sieboldii</i>	0.06	0.02		
ホトトギス	ホトトギス	シメウチ カウチ ツツドリ ホトトギス	<i>Cuculus fugax</i> <i>Cuculus canorus</i> <i>Cuculus saturatus</i> <i>Cuculus poliocephalus</i>		0.17 0.05		
ヨツカ	ヨツカ	ヨツカ	<i>Caprimulgus indicus</i>				
アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>			0.20	
キツツキ	キツツキ	アオケラ アケケラ オオアケケラ コケラ	<i>Picus awokera</i> <i>Dendrocopos major</i> <i>Dendrocopos leucotos</i> <i>Dendrocopos kizuki</i>	0.06			
スズメ	ツバメ	ツバメ イワツバメ	<i>Hirundo rustica</i> <i>Delichon urbica</i>			0.10 0.79	0.50
	セキレイ	セキレイ ヒメセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i> <i>Anthus hodgsoni</i>		0.04 0.07		0.10
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>				
	モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	0.12	0.04		
	ミソサザイ	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>		0.10		
	イロハバ	イロハバ	<i>Prunella collaris</i>			*0.20	
	ヒタキ	ヒタキ	<i>Prunella rubida</i>			0.20	0.10
		コマドリ コリ ムラサキ マシロ トラツグミ クロツグミ ヤブサメ ウグイス ホソソムシクイ イソソムシクイ ヒメソムシクイ キバタキ オオムシクイ	<i>Erithacus akahige</i> <i>Erithacus cyane</i> <i>Tarsiger cyanurus</i> <i>Turdus sibiricus</i> <i>Turdus dauma</i> <i>Turdus cardis</i> <i>Cettia squameiceps</i> <i>Cettia diphone</i> <i>Phylloscopus borealis</i> <i>Phylloscopus tenellipes</i> <i>Phylloscopus occipitalis</i> <i>Ficedula narcissina</i> <i>Cyanoptila cyanomelana</i>		0.04 1.06 *0.10		0.80
	イナカ	イナカ	<i>Aegithalos caudatus</i>	0.31	0.19		
	シメツバメ	シメツバメ	<i>Parus montanus</i>	*0.19	*0.07		
		ヒメツバメ ヤマツバメ	<i>Parus ater</i> <i>Parus varius</i>	0.06 0.06	*0.21		
		シメツバメ	<i>Parus major</i>		0.07		
	ユシツバメ	ユシツバメ	<i>Sitta europaea</i>		0.09		
	メシロ	メシロ	<i>Zosterops japonica</i>				
	ホシ	ホシ	<i>Emberiza cioides</i>	0.19	0.02		
		クロシ	<i>Emberiza variabilis</i>	0.06	0.47		
	アトリ	アトリ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>		0.16	0.10	0.10
		イカル	<i>Eophona personata</i>	0.12			
	カラス	カラス ホシカラス ハシボソカラス	<i>Garrulus glandarius</i> <i>Nucifraga caryocatactes</i> <i>Corvus corone</i>	0.06	0.09		
8目	21科	51種		12種	33種	12種	8種

*: 繁殖の確認された調査地.
1: 大長山から六本槍まで.

調査地 (面積) と調査時期 Study area (ha) and season						
法恩寺山 Hoonjiyama	経ヶ岳 Kyogadake	荒島岳 Arashimadake	銀杏峰 Genanpo	平家岳 Heikedake	能郷白山 Nogo-hakusan	冠山 Kanmuriyama
0.67	0.13					
		0.09	0.14	0.05	0.09	
0.67						
0.13	0.27	0.09	0.29			
0.13		0.35	0.14	0.10	0.35	
0.27	0.80	0.53	0.29	0.40	0.53	0.09
				0.05	0.18	
0.40	0.13					
0.13		0.09		0.10		0.09
0.67	0.13	0.18	0.14	0.05	0.18	
			0.14	0.15		
0.27						
	1.07					
0.27	0.13					
				0.15		
1.20		0.18		0.10		
			0.14			0.09
	0.67	0.44	0.14	0.15	1.06	
	0.13					
	1.20		0.29		0.18	0.47
		0.97	2.14	0.15	3.54	
				0.30	0.27	
		0.44	0.43		2.12	
0.27		0.18				
0.27		0.18	0.14	0.10		
0.40	2.13	0.89	*1.43	1.15	3.45	1.40
				0.05	1.78	
				0.15		
				0.20		
0.67	0.13	0.35	0.57	0.15		
				0.20		
	0.13	0.62	*1.14	0.80	*2.04	*0.28
0.40	0.53	0.89	*1.71	0.30	*4.43	
0.40				0.20		
2.13	0.67	0.18	*0.43	0.15		0.28
		0.44		0.25		0.19
						0.09
0.27	0.67			0.10	0.09	0.19
		0.62				
		0.27	0.43	0.45		0.09
0.40		0.27	0.14	0.05		
1.60	0.13	0.18	0.57	0.40	0.35	
	0.13					
0.13						
24種	20種	25種	22種	37種	17種	14種

大迫義人・中井信介. 1997. 1996年石川・福井・岐阜の県境の三ノ峰で観察されたイワヒバリ. *Ciconia* 6:33-34.

Subalpine avifauna of Fukui
-Result of the fiscal 1996 bird census-

Fukui Nature Conservation Center ¹

The avifauna and breeding status were studied at a total of 20 study sites of 11 areas on the mountain and subalpine zones in Fukui in 1996. A total of 51 species of 21 families of eight orders was recorded for a total of 40 days in summer, of which the breeding behaviours were observed in seven species of four families of two orders. There were recorded Mountain Hawk Eagles and Golden Eagles at Mt. Akasagiyama as vulnerable species that Environment Agency has registered; Alpine Accentors and Nutcrackers as rare species in Fukui Prefecture. Bush Warblers, Little Cuckoos, Japanese Robins, Great Spotted Woodpeckers, Willow Tits, Coal Tits, Bullfinches and Jays were widely observed. Many species were recorded at Mt. Heikedake, Mt. Akasagi, Mt. Arashimadake and Mt. Hoonjiyama. The subalpine avifauna should be monitored and conserved.

1. Minamirokuroshi 169-11-2, Ono-shi, Fukui 912-0131

Written by Yoshito Ohsako